

Ricordi in Viaggio

旅の記憶

飯田貴子

I I D A T A K A K O



## 旅の記憶

今日で47歳になった。人生の旅も半ばを過ぎたと思う。イタリア滞在は予想以上に長くなった。たくさんの出会いがあった。たとえ顔も名前も覚えていない人がいたとしても、その全ての出会いから貴重なものを得ているはずである。そして忘れられない印象的なシナリオや出来事も多々あった。

私の絵は、記憶の断片を集めて生まれる。

2ヶ月前、義父が急逝した。とても辛い経験だった。夫はその痛みにも今でも苦しんでいる。私は舅のことを毎日思い出すことは無くなったが、時折、一緒に過ごした短い時間の僅かな思い出が脳裏に浮かんで消える。舅の旅は終わったけれど、私はまだ彼と一緒に旅をしているような錯覚に陥る。

桜は一瞬にして散ってしまう。多くの作家や芸術家がテーマとして作品に用いているように、日本人は桜を愛している。桜が散る様は、短い人生の美しさと儚さを体現している。私も桜が好きだ。

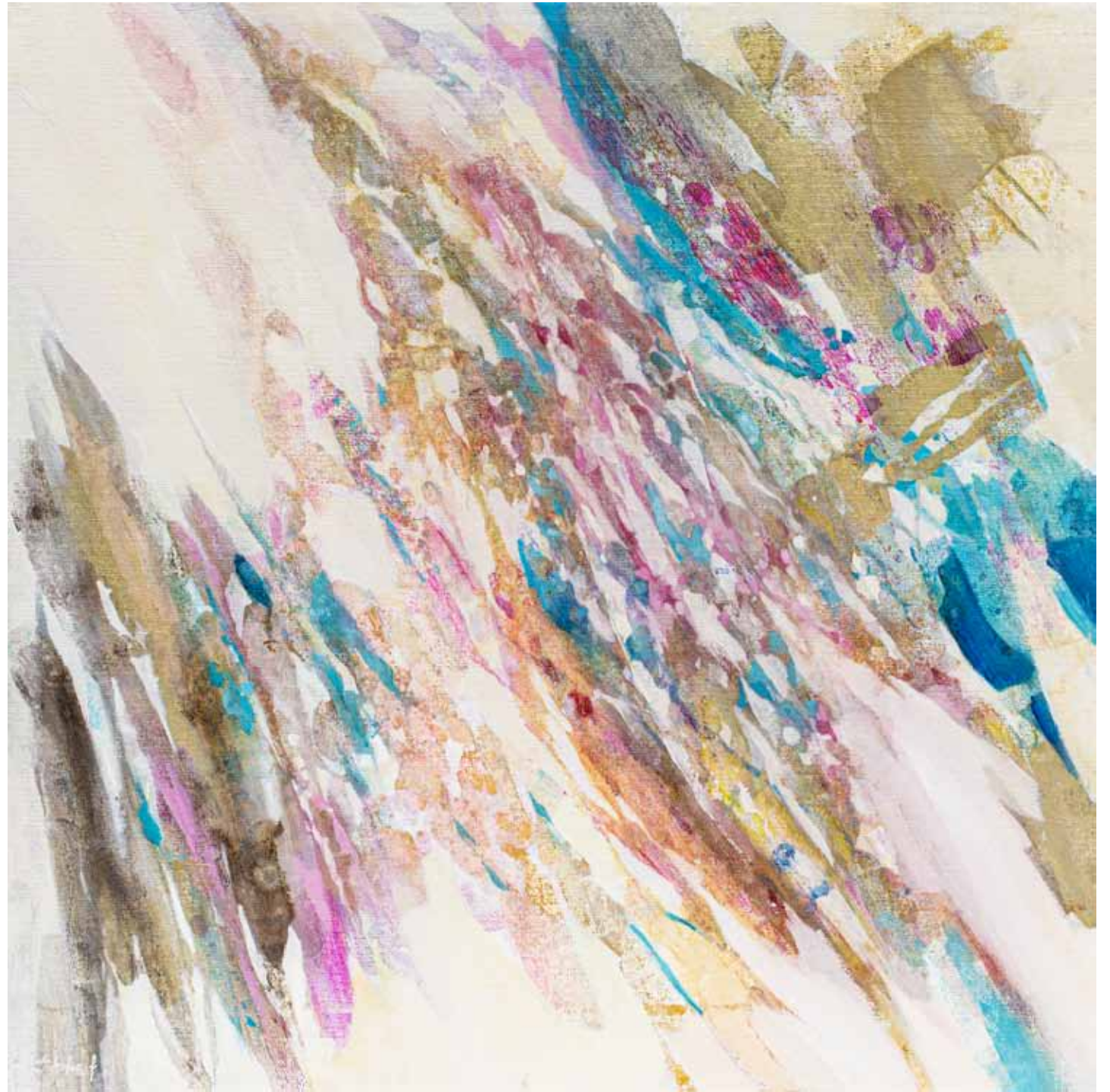
私の人生の旅路の記憶、悲しかったこと、嬉しかったこと  
子供が掌に散った花びらを集め遊ぶように  
もう一度かき集めて  
キャンバスの上で、美しく咲かせてみたい。

旅が長くなると、時には疲れを感じることもある。大切なものとの別れを予感しながらも、心の準備をしないでいると、深く傷つく。しかし、辛い記憶であればなおさら、桜の花びらが散るが如く、軽やかな美しさの中に昇華させて抗いたい。

2018年4月18日









## Restaurant Wicky's 2009

夫の故郷は海に囲まれた国で  
彼の記憶には、いつも夜の海があるの  
月が出ていて、波の音がする  
そう友人は語っていた。

私は訪れたことのない遠い異国の夜の海を想い  
自分の引き出しに僅かにでもあるのか、疑問ではあった  
けれど

男性的なものを引っ張り出して、  
海の側で育ったシェフのレストランに  
相応しい絵を描くことを試みた。

「絵描って、イタコみたいだ」とその時思った。



雪の日 2011

幼稚園のクリスマス会、息子の合唱を聴いて帰り道、  
大雪になり娘が眠るベビーカーの車輪が雪に埋まって動かなくなった。  
なんだか切なくて、泣きたくなった。  
私の雨合羽を握って幼い息子も泣きべそをかき始めた。

お金もなく、親戚もない異国。誰も助けてくれない。灰色の世界に3人だけ。

そんな時にベビーカーの娘が笑った。ケラケラと笑っていたと思う。  
ベビーカーにかけられた雨除けの、ビニールに積もる雪が面白かったのだろうか。  
その後どうやって帰ったかのか、娘の声にしっかりせねばと我に返った記憶がある。  
今でも息子と娘はとても仲が良い。きっと大切な同志なのだろう。







Green Composition 2014



## Ristorante Fukurou 2014

ミラノのレストラン。  
カップルがデートで訪れ、ビジネスディナーでも使えるような、レストランにしたいから、少し大人な雰囲気を出す絵を描いて欲しい。そうデザイナーの夫からリクエストがあった。四メートル近くある壁画のような絵をほぼ完成させた頃、店のイメージは家族で気軽に来てもらえるような、健康的で明るいイメージで、とオーナーから修正があった。夫婦で仕事をするのは難しい。大喧嘩の後、結局一から描き直した。最初の絵は小さく切られ、違う沢山の作品に生まれ変わった。そんな絵が、結構沢山ある。





Blue  
2014



赤い花  
2017







無題  
2018

砂浜  
2015







Primitive  
2015







ミモザ  
2016



ミモザ  
2018





*Shiho Ueda*

そよぎ  
2016





**Bouquet** 2016

大切な息子が好きな黄色の  
花の絵を  
新しい家の壁に飾りたい  
そんなご家族に贈った幸せの  
ブーケ。







迷宮  
2017



なぎさ  
2018







**Amor d' été** 2017

夏の日の恋は洒脱に  
ゴダールの映画のいかれた恋人たちが辿り着いた  
海岸のさざなみ  
キラキラと輝き直ぐに消えてゆく。



**La Fasta**  
2017









夏の日差し  
2018







KIDO-ISM  
Japanese Fusion Restaurant 2018





La Festa  
2018





Blue Wave  
2018











紫の夢  
2019





DANDAN 2021

荷葉团团として団きこと鏡に似たり一蓮の葉はまるで鏡のように円い。

菱角尖尖として尖きこと錐に似たり一菱の実の刺々しいことはまるで錐のようだ。

その昔中国では、長引く戦さや疫病で苦しむ民衆の心を慰めるために、この一連の詩が読まれた。

イタリアに24年暮らし、2021年10月、母の介護のために日本に帰国したが、コロナが世界で猛威を振るっていた時期で、疫病とその後起こった戦争は、イタリアに残した家族との距離をより遠いものにし、精神的にも経済的にも私たちの生活に暗い影を落とした。介護と、私を追ってミラノから帰国した娘の受験と、日々の雑用に追われながら、時々群馬の小さな家の窓から、ミラノで暮らす夫と息子を、そして世界を想っていた。2年間の個人的な体験が、今世界で起こっている事象の延長線上にあるなら、そこで生まれた作品が、多少でも観る人の心の慰めになれば幸いである。

2023年10月







弥生の空 2020

2020年3月、コロナウィルス感染の拡大により、ミラノは3ヶ月に及ぶ最初の外出規制に突入した。日頃出張ばかりの夫がいつも家に居て、学校が閉鎖になった子供たちもオンライン授業を受けていた。そんなに長く家で家族と過ごすのは、初めてのことだった。思えばあれが、家族4人で一緒に暮らす最後の時間となった。経済的な不安や、未知の感染症の脅威はあったにせよ、家の中は穏やかで平和だったと思う。

コロナは様々な人の人生に多少なりとも影響を与えた。

私たちの家族も例に漏れず、大きな変化を余儀なくされた。

それでも、私たちは限られた条件の中で最善を尽くし、友人と助け合いながら、ささやかな幸せを必死に守った。明るい方を見て、しぶとく生きる術を学んだ。

春の外出規制が終わる頃、日本に帰国する友人からミラノの空の絵を描いて欲しいと注文があった。人生の一時期をミラノで暮らした女性の、頭上に広がっていた空。彼女の人生の出発を祝って、爽快な青空を描こうと思ったら、イメージと違ったらしい。弥生の空は、赤とブルーがせめぎ合う、ドラマチックな空なのよと、彼女は笑っていた。







夏の陽射し 2020





そよぎ  
2020





無題  
2021



青空のかけら  
2021





うつろい  
2022







Posie Senza Parole  
2022



## 飯田貴子 プロフィール

群馬県生まれ。2003年フィレンツェ美術学院卒。ミラノの中心、ローマ遺跡が残る5Vieのアトリで、主に油彩による抽象画の制作を行う。建築デザイナーの夫とのコラボレーションで、ミラノのレストランや個人邸宅の内装のための作品を数多く手掛ける。その他アトリエ併設のショールームにおいて(ここにtkdショールームページのリンクを入れる)、プロダクト製品やアートの展示会の企画、アートディレクションも行う。

「慌ただしい生活の中、過去に埋もれていってしまう小さな喜び、悲しみ、痛み、儂い美しさ、一瞬の輝き、言葉が届かない感情。心の中に蓄積した記憶の断片を集め、自分の持つ印象と作品の溝を埋めようともがきながら、キャンバスの上に再現しよう試みています。その様にして生まれた作品が、飾られる空間を豊かにし、見る人の心と共鳴し、少しでも喜んでもらえるなら、作り手として幸せです。」

## 受賞歴

- 2003年 安田火災奨励賞展推挙
- 2003年 フィレンツェ美術大賞展佳作入賞

## 活動歴

- 2012年 8月 銀座ギャラリー美庵 個展
- 2015年 11月 レッジョ・エミリアGalleria San Francesco グループ展「紅葉狩」
- 2017年 5月 コローニョ・モンツェーゼVilla Casati二人展「Due Mondi Diversi (Two different Worlds)」
- 2018年 6月 ミラノTENOH日本人三人展「Amor d' été」
- 2018年 4月 ミラノ セレクトショップ L'Isa 二人展「Ricordo in Viaggio 旅の記憶」
- 2018年 12月 ミラノArnaout Spazio Arte グループ展「NEROCONTEMPORANEO」
- 2019年 5月 ミラノArnaout Spazio Arte グループ展「ORO CONTEMPORANEO」
- 2019年 5月 ミラノSpazio Fondazione Paolina Brugnatelli 作陶展「ミラノnendo 倶楽部」絵画と陶芸作品で参加。
- 2019年 10月 スロベニアにてアーティスト・イン・レジデンスに参加
- 2019年 11月 埼玉県立美術館で現代美術展CAFネビュラ展にイタリアからの招待作家として参加。
- 2019年 11月 ミラノSpazio Fondazione Paolina Brugnatelli 作陶展「Sussurri di Terre」に絵画と陶芸作品で参加。
- 2021年 4月 葉山芸術祭に、ミラノ在住の声楽家小里明子、ジュエリー作家加江美とグループRASENとして映像作品LOOPを発表。
- 2021年 5月 ミラノ領事館 個展
- 2021年 6月 ミラノTakeda Katsua Design Showroom日本人三人展「DanDan 荷葉团团」
- 2023年 10月 桐生市ギャラリー・オマドーン個展「DanDan 荷葉团团」
- 2024年 9月 日本橋中和ギャラリー個展
- 2024年より 現代美術展CAFネビュラ展 会員 10月出品予定

その他ミラノで多数の展示を行う。